



G30 国際教育指導研究シンポジウム 「留学交流の危機管理とヘルスケア」

プログラム・要旨集

【日程】 2011年12月7日（金）13：30-17：55

【会場】 京都大学 芝蘭会館 山内ホール

【主催】 京都大学

【共催】 大阪大学、同志社大学、立命大学

【協力】 神戸大学、広島大学、龍谷大学

京都大学・研究国際部・K.U.PROFILE プロジェクト室

〒606-8501 京都府京都市左京区本町

TEL: 075-753-2604

FAX: 075-753-2042

E-mail: g30symposium@opir.kyoto-u.ac.jp

【G30 国際教育指導研究シンポジウム】

テーマ：留学生の危機管理とヘルスケア

I: 基調講演

「留学生相談の現状と外国人研究者のメンタルヘルス」

京都大学 国際交流センター 准教授 阪上 優

要旨：

最初に、京都大学における留学生数、留学生比率、外国人教員数、外国人教員比率等の推移を紹介する。次に、京都大学における留学生相談数の推移を項目別に紹介する。相談内容としては、進学・転学相談、勉学・研究上の問題、健康問題が大きな割合を占めている。困難なケースとしては、社会的ひきこもり、ハラスメント関連、幻覚・妄想を有する症例、うつ病などがあげられる。また少数ではあるが、境界型人格障害や発達障害を伺わせるケースも見受けられる。今後、相談業務の在り方について、さらなる改善が必要と考えられる。最後に、外国人研究者のメンタルヘルスと自我態度について探索的な調査を行ったので、検討を加え報告する。

II グループワーク 【留学生受け入れ：症例からみる留学生の支援と危機管理】

テーマ1

「国費外国人留学生（大使館推薦・研究留学生）の受け入れを巡る問題について」

京都大学 人間・環境研究科 講師 藤田 糸子

要旨：

留学生を受け入れる側の危機管理の一つとして、「大使館推薦による国費外国人留学生の受け入れを巡る問題」を提起したい。大使館推薦の国費外国人留学生を受け入れるに当たっては、基本的に書類を見て受け入れの諾否を決めなければならない。ただし、それだけでは十分な情報が得られないので、スカイプによる面接などを利用して、受け入れ側が直接、応募者の資質や学習意欲の有無、研究テーマの有意義性などを確認する努力を行なっている。それでも、優秀な学生を見極めることは必ずしも容易ではない。特に、国内採用の国費外国人留学生を選抜する場合には、学業成績、研究の進捗状況、論文の本数や発表の回数まで、書類審査と面接を通して厳しく審査していることを考えると、同様な厳しい選抜を大使館推薦による国費外国人留学生について実施することは難しいと感じている。

グループワークでは、報告者が経験した様々な「大使館推薦による国費外国人留学生の受け入れを巡る問題」を紹介した上で、参加者の皆様が、どのような方法で真に優秀な大使館推薦による国費外国人留学生を選抜しておられるのかということについて情報交換すると同時に、関連する問題について広く議論したい。

テーマ2

「交換留学生インターンシップ授業における国際教育と社会の相互支援体制の構築の課題」

広島大学 国際センター 国際教育部門 准教授 恒松 直美

要旨：

広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)留学生向けに2003年度より開講しているインターンシップの授業について、大学の国際教育と社会の新しい相互支援の可能性を考察する。現在、実践の準備のための授業「HUSA インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」（日本語中級・上級者向け）とインターンとして就労する実習の授業「HUSA インターンシップⅡ：実習」（日本語上級者向け）の2コースを開講するに至っている。2010年度より全学公開の企業体験者講話とPBL協同学習を導入し、学生の自主的学びを促進している。今後は本授業を大学の国際教育と社会の相互支援の場へと発展できるよう新しい連携体制を構築していく。

テーマ3

「京都大学におけるアドミッション支援オフィス導入の背景・効果・展望」

京都大学 国際交流推進機構 国際企画連携部門 韓 立友

要旨：

京都大学における留学生受入れ体制整備の一環で行われているアドミッション支援オフィスの活動について説明する。まず、アドミッション支援オフィスが必要とされる背景である中国人留学生の受入状況について説明するため、日本の大学が必ずしも優秀な学生を獲得できていない現状と、その原因を探るため行った、中国の重点大学に在籍する学生を対象にしたアンケート調査の結果を報告する。続いて、留学希望者からの質問への回答を始め、応募書類の受付と予備審査、受入教員とのコンタクトと応募者への結果通知を一括して行うアドミッション支援オフィスの活動を詳しく紹介する。最後に、アドミッション支援オフィス導入後の京都大学の状況と今後のアドミッション支援オフィスの活動の展望を述べる。

テーマ4

「問題を抱える留学生にいかに関心、支援をするか」

京都大学 留学生ラウンジ「きずな」 楠元景子・岩田敦子・今井亜砂子

要旨

初めに、留学生ラウンジ「きずな」の概要、大学院生チューターと常駐する留学生課のスタッフの特徴や役割、日頃の業務で心がけていることについて紹介する。「きずな」で行うアドバイジングはピアサポーターが担い、身近な相談相手として来談者の支援にあたる。また普段を知るからこそ悩む学生の変化に関心、働きかけもする。学内外のさまざまな職種や機関と連携して、本人の気持ちに沿うゴールを共に目指す。ディスカッションでは参加者にひとつの事例検討を通じて、ピアサポートの特徴への理解を深めてもらう。併

せて他機関の取り組みについて意見交換する。最後に、留学生支援の難しさや今後の課題を討議し、まとめる。

Ⅲ 特別記念講演

「海外出向社員の健康管理」

パナソニックエレクトロニクス株式会社 健康管理室長 全 羽

要旨

労働者の場合は、海外赴任前に健康診断が法律により義務づけられている。これを利用して、高血圧、糖尿病、脂質異常症および癌などの病気をスクリーニングすることが大切である。赴任先での感染症を含めた医療事情を把握し、必要な予防接種を受けること、救急時に受診する病院を選定することも大切である。海外赴任中は、健康管理は自己管理であることを認識し、定期的な運動を行い、偏った食生活にならないように注意をする。また、年に1回は健康診断を受け、病気の早期発見を心がける。ストレスは蓄積しないようにし、心の健康も維持する。海外赴任後は、法律で義務づけられた健康診断を受診し、健康状態の確認を行う。

Ⅳ パネルディスカッション 【送り出しにおける支援と危機管理】

-派遣元としての危機管理について-

パネリスト1. 同志社大学 国際センター国際課 国際化推進室 課長 西岡 徹

タイトル「外的要因以外の危機管理に向けて」

要旨：

学生が単独で行動する協定校への派遣学生については、地域の多様性も含め、危機管理対応が複雑である。学部等での面接に加え、国際センター所長による面接や危機管理説明会の開催、危機管理会社との契約及び海外旅行保険加入により、危機管理を行うと共に、外務省の渡航情報に基づいた判断基準も設けている。以上、自然災害、政情不安等外的要因に対する管理については一程度実施しているが、渡航情報に基づいて帰国させた学生への対応、留学動機、特に非英語圏への派遣に係る外国語能力等、色々な意味で学生自身の要因により危機に瀕する可能性のある学生の見極めについても、今後危機管理の一環として考える必要がある。

パネリスト2・龍谷大学 国際部 課長 久志 敦男

タイトル「派遣留学生の支援体制と海外旅行保険包括契約」

要旨：

本学における派遣留学生に対する危機管理の主な枠組みは次のとおりである。

1. 派遣留学生の支援体制

(1) 派遣留学生選考委員会

国際センター会議及び RUCeC 教務会議の下に、派遣留学生選考委員会(交換留学、BIE 留学)を設置し、

派遣留学生を選考。

(2) 派遣留学指導体制

派遣専門担当職員 2 名（専任 1 名、嘱託 1 名） ※BIE 留学の場合、RUBeC オフィス（海外拠点）がサポート

(3) オリエンテーション

事前オリエンテーション、帰国オリエンテーション

(4) 留学中

マンスリーレポート

2. 海外旅行保険包括契約

学生外国留学規程において、次のとおり規定している。

「前条の学長の承認を得た者（以下「留学決定者」という）は、留学期間中、大学が指定する留学保険（海外旅行保険）に加入しなければならない。」

この規定に基づき、学生は大学が指定した損害保険会社の海外旅行保険への加入が義務づけられている。なお、留学保険の額（補償内容）も別途定めている。

-送り出し学生の危機管理について-

パネリスト3. 大阪大学 国際教育交流センター 副センター長 教授 有川 友子

タイトル「送り出しの危機管理における教職員による連携協力体制の重要性」

要旨：

日本の大学において交換留学や海外研修等を通して学生の海外への送り出しが増加する中、危機管理への関心が高くなっている。本発表では、大学で送り出しに関係する教職員の連携協力体制の重要性に焦点をあてて発表する。勿論、予防の観点から海外留学等を行う学生を対象とした研修やオリエンテーションも必要である。しかしそれだけでなく、送り出す側としての大学の教職員に危機管理に対する意識と連携協力体制があるか否かが、危機発生時の初動、その後の対応や事態を左右する可能性がある。本発表では大阪大学における海外留学中の学生への対応事例を紹介し、送り出す側の連携協力の重要性について議論していきたい。

パネリスト4. 京都大学 国際交流推進機構・国際企画連携部門 特定助教 西川 美香子

タイトル「留学前の準備と適正について」

要旨：

京都大学では様々な超短期派遣留学プログラムが実施されている。本発表では、演者が担当している海外派遣プログラム（オーストラリア海外研修プログラムおよび米国実習型短期プログラム）を例にとり、留学前にしておくべき準備事項について紹介する。具体的には、(1) 派遣学生の健康管理の一環として、医師との面談を導入した経緯について、(2) 派遣学生の安全管理に対する京都大学における実施体制について述べる。また、海外派遣プログラムが直面する課題についてはパネル ディスカッションを通じて広く議論し、今後の取り組みへのフィードバックを掴むとともに、留学プログラムのサポート体制の拡充につなげたいと考えている

パネリスト5. 立命館大学 グローバル・ゲイトウェイプログラム 担当嘱託講師 村山かなえ

タイトル「留学前の異文化対応」

要旨：

立命館大学で2009年度より実施中の「グローバル・ゲイトウェイプログラム（GGP）」での留学前指導の実践について紹介する。GGPでは、入学時に長期留学を希望している学生に、留学前後を通じて、留学効果を高める為の国際教育プログラムを提供し、またGGP担当教員による個別相談指導も設け、個々の学生の学習目標や進路に適した留学実現を目指している。留学前指導の主な項目として、1) 派遣先大学で必要とされるアカデミックスキルを身につけること、2) 必要な他の力を借りて、自ら問題解決を行うこと、3) 異文化適応の過程を学び、メンタルヘルスについて理解ができること、について、実践例を用いて説明する。

パネリスト6. 神戸大学 留学生センター 教授 河合 成雄

タイトル「帰国後を想定した留学相談」

要旨：

発表者は交換留学等の学内制度によって留学ができない学生に対しても多く相談をしているので、その観点から、神戸大学での事例を考察しつつ発表したい。留学後に学生が直面する問題と言えば、単位の書換え、就職、適応などが考えられよう。しかし、帰国後の学生を対象に統計的に調査したことはないが、これらの問題は、留学後の学生が他の学生よりも困っているケースは少ないと発表者は感じている。留学を決定した時点で将来の問題は織り込み済みで行動していると考えられるのである。むしろ、就活などの問題が留学を目指す学生に不安を与えていることが問題であり、留学後までを想定した計画をたてるのを助けることが重要であると思われる。